

The Family of Man

日本経済新聞社
創刊150周年記念

ザ・ ファミリー・ オブ・マン 写真展

2026年 **8.12** (水) — **24** (月) ※8月19日(水)は休業日

日本橋高島屋S.C.
本館8階ホール

ご入場時間：午前10時30分～午後7時
(午後7時30分開場)
※最終日は午後5時30分まで(午後6時開場)

【入場料(税込)】 一般 1,200円、大学・高校生 1,000円、中学生以下無料

※入場券はローソンチケット(Lコード32733)、セブンチケット(セブンコード115-878)、イープラスにて2026年8月23日(日)までお求めいただけます。会期中は入場券は展覧会場の入場券売場でもお求めいただけます。

主 催：日本経済新聞社
特別協力：ルクセンブルク国立視覚センター、ルクセンブルク文化省、駐日ルクセンブルク大公国大使館
協 賛：エプソン販売、Sigma
協 力：アトリエマツタイラ、徳川印刷、フレームマン
後 援：一般財団法人 日本カメラ財団、公益社団法人 日本写真家協会、公益社団法人 日本写真協会

NIKKEI 150th

CNR



LE GOUVERNEMENT
DU GRAND-DUCHÉ DE LUXEMBOURG
Ministère de la Culture



LE GOUVERNEMENT
DU GRAND-DUCHÉ DE LUXEMBOURG
Ministère de la Culture

Kultur|lx Arts Council
Luxembourg

※当催しについては、「障がい者手帳・デジタル障がい者手帳」をご提示いただいたご本人様、ならびに、ご同伴者1名様まで入場無料とさせていただきます。※安全のため、小学生以下のお子様は必ず保護者の方ご同伴でご入場ください。※都合により、催し内容・会期等が変更または中止になる場合がございます。最新の情報は日本橋高島屋S.C.のホームページをご覧ください。※掲載作品と会場に展示される作品はサイズ、色などが異なる場合があります。

タカシマヤのカードで

ご入場無料



※当日のご入会でも対象です。
※その他のご優待につきましては、
特設HPをご覧ください。

アプリクーポンでご本人様のみ

300円引き
にてご入場



人類愛と

平和のビジョンを、

いま再び

Takashimaya S.C. NIHOMBASHI



1



2

The Family of Man



3



4



5



6



7

1956年、日本橋高島屋において日本経済新聞社主催で開催された写真展「ザ・ファミリー・オブ・マン」。ニューヨーク近代美術館（MoMA）と連携し、ロバート・キャパ、ユージン・スミス、アンリ・カルティエ=ブレッソンをはじめとする世界的写真家の作品約500点で構成された同展は、「人類愛と平和」という普遍的な理念を戦後日本に強く印象づけ、国内で100万人におよぶ来場者を集める社会的現象となりました。

それから70年。写真史に名を刻んだこの展覧会がオリジナルから厳選した約115点により回顧展として現代に蘇ります。2027年に日本・ルクセンブルク外交関係樹立100周年を迎えることを記念し、オリジナルの理念を踏まえつつ、現代の視点から応答する作品として、ルクセンブルクの写真家および日本経済新聞社の写真記者による作品も展示します。

世界各地で撮影された数々の人生の断片は、時代や国境を越えて私たちに静かに問いかけます。分断や不安が広がる現代において、この問いは過去の理想ではありません。写真たちが語るのは、過去の歴史ではなく、いまを生きる私たちへの問いなのです。

詳しくはこちらから▶



What is "The Family of Man"? 「ザ・ファミリー・オブ・マン」とは？

「ザ・ファミリー・オブ・マン」は、1955年にニューヨーク近代美術館（MoMA）で誕生した20世紀を代表する大規模な写真展です。この展覧会を企画・キュレーションしたのは、当時MoMA写真部長を務めていた写真家エドワード・スタイケン（Edward Steichen 1879-1973）でした。展覧会は世界各地を巡回し、900万人以上が観覧。日本では1956年日本橋高島屋で開催。実行委員会には、日本写真界を切り拓いた写真家・木村伊兵衛をはじめ、展示空間を手がけた建築家・丹下健三など、当時の第一線で活躍する表現者が名を連ねました。その後、国内20都市以上を巡回して合わせて約100万人の来場者を集めました。日本写真史における金字塔として位置づけられています。



▲大勢の人で賑わう日本橋高島屋会場(1956年)



スタイケンは晩年に、「ザ・ファミリー・オブ・マン」を彼の出身国であるルクセンブルクに委ねました。現在、作品群はルクセンブルク北部のクレルヴォー城において永久展示され、ユネスコ「世界の記憶」に登録されています。

◀クレルヴォー城（「ザ・ファミリー・オブ・マン」展示会場）
《The Family of Man》, Clervaux Castle
© CNA/Romain Girtgen, 2013

- 1：ヴェルナー・ビショフ[インド]
- 2：ロバート・キャパ[チェコスロヴァキア(当時)]
- 3：ウィーン・パロック[アメリカ]
- 4：ジョン・フロア[日本]

Image by John Florea. © 1947 The Picture Collection LLC. All rights reserved.

- 5：ニーナ・リー[アメリカ]

Image by Nina Leen. © 1948 The Picture Collection LLC. All rights reserved.

- 6：アルフレッド・アイゼンスタット[アメリカ]

Image by Alfred Eisenstaedt. © 1950 The Picture Collection LLC. All rights reserved.

- 7：山端庸介[日本(長崎, 1945.08.10)]

表の写真：W・ユージン・スミス[アメリカ]

Image by W. Eugene Smith. © 1953 The Picture Collection LLC. All rights reserved.

The selection of works is based on the exhibition *The Family of Man*, organized by Edward Steichen, former Director of the Department of Photography, and originally presented at The Museum of Modern Art, New York, from January 24 – May 8, 1955.

写真家たちが歴史に刻んだ、
世界中の愛と平和への願いが蘇る。